

受験の時やこれから大人になっていくと面接をしないといけないけど、面接の時だけきちんとやろうと思っても面接は日々の生活からきちんとしてないとできないということが分かりました。また、正しい姿勢や第一印象は3秒でわかるということも学べて良かったです。

仕事をいやいやでやっている人も
多いなかで、心から楽しんでいる
気持ちが伝わった。新しい土地に
行くのが楽しいことに共感した。

斎藤記者の講演会を聞いて、思ったことは、新聞が一番正確でわかりやすいんだなと思いました。共同通信社のYouTubeを帰ったら調べようと思いました。新聞を若者に興味をわかせるために、政治内容や事件を漫画にして、わかりやすく視界にすっと入るようなレタリングをして面白くすればいいと思いました。僕も斎藤さんのように明確な将来の夢を見つけたいと思いました。とてもいい経験になりました。自分も斎藤さんのような仕事熱心な人になりたいです。斎藤記者本当にありがとうございました。

斎藤記者 振り返り

共同通信というものを初めて知った。怖いものから楽しそうなものまで、体験談を話していただいて、どんなものかより深く知ることができたと感じた。場所を点々としてきたことを聞いたときは、普通より知って得したこと、知らなくて良いこと、が多いのでは無いだろうかと疑問を持った。記者というのは会いたい人にも会えるし、怖い人にも会わないといけないので、プラマイゼロに近いんだろうなと思った。自分が作った記事を誰かが読んでくれるのは、とても嬉しいしモチベーションが上がるような気がして、自分も記者に興味が湧いた。将来の仕事は小さい頃の環境にも左右されるんだなど分かった。今回の公演をこれからに生かして行きたい。

斎藤記者講演 振り返り

共同通信の良さが分かり、新聞の良さが改めて分かり、普段はラインなどでニュースを見ていたので、新聞ノートをしているので新聞でもニュースを見ようと思った。また、共同通信についてユーチューブにあると言っていたので見ようと思った。そして、各クラスの評議員が質問していったときに、暗いところに一人で人を待つというのは少し怖いと思ったし面白そうと感じました。新聞記者はとても大変だと思うけれど若手記者としてこれからも頑張って欲しいです！

ファイトです！(◐•`臼•')و✧

斎藤記者の話を聞いて

昔は家で新聞を取っていた。けれども、朝夕の二回しか情報が得られなかつたので、新聞を取るのをやめてしまつた。今はTwitterやYahooなどでニュースを見ているので、瞬時に情報がわかるけど、フェイクニュースや誹謗中傷などマイナスな場面もある。なので、新聞やインターネットによる情報を、状況に応じて使い分けていきたい。また、若者の新聞離れ・ニュース離れについては、私達がよく使うInstagramやFacebookなどのアプリや、学校で配布されたタブレットでもニュースが読めるようにしたり、広告や短いPR動画、その日のニュース動画などを作成してYouTubeなどのCMに流すと、それを見た人が気になり、ニュースについて詳しく調べると思うので若者のニュース離れに効果的だろう。

共同通信という会社があることを初めて知った。様々なメディアや新聞会社に記事を提供していると聞き、驚いた。取材の仕方は対面だけでなく、オンラインで行うこともあると知った。それぞれの良さがあり、その分大変なこともあると分かった。また、時事ネタだけでなく、それ以外のテーマについても取材していると分かり、読んでみたいなと思った。新聞をよりたくさんの人々に読んでもらう工夫として、絵文字を使ってみれば難しい印象が減り、たくさんの人々に読んでもらえると思う。今回の講演会を通して、新聞やネットニュースが私達に届くまで、様々な人が関わっていると学んだ。難しそうだから、とさけるのではなく、興味をもって読んでみようと思った。

斎藤さんの話を聞いて、私は正直学校以外で新聞に触れる機会がなく、時間もないのでテレビから情報を得るのも億劫で家族から今日こんなんあったらしいと口頭で世間を知ることがほとんどだったので、斎藤さんの話を聞いてこれを機に紙の新聞を読んだり、テレビやネットから積極的に情報を得ようと思った。

私が新聞を読まない理由を考えてみると、時間がなかったり、購読してまで読みたいと思うほどの魅力を感じれないことが主だと思ったので、若い人まで魅了できるように、思い切って新聞の構成を変えてみてはどうかと思いました。ツイッターのように、起きたことを社員さんの名前で呟いたように見せ、リプ欄のように下に他の社員さんの意見や考えを取り入れると、臨場感が得られ、読み進めたい気持ちが高まるに連れ、スレ主だけを読めば何が起きたかすぐわかるので時間がなくともすぐ理解ができるし、難しい言葉を入れる必要や堅くする必要がなくなり一層若者の新聞に対する関心が増すと思いました。

感想

私は普段、インターネットを活用してニュースを見ている。しかし、今回の講演で新聞を読むことによってあまり知らないニュースでも深く知れるということがわかった。また、その文章には新聞記者が自転車を頑張ってこいで汗水を垂らして取材した努力が詰まっているのだと知った。今回の講演で一番印象に残ったことは、新聞記者が取材するにあたって、取材される側の気持ちを考えなければならないことだ。話を聞いていて、本当にこんなこと聞いていいのだろうかなどといった不安がよく伝わってきた。このことから、新聞記者は楽しいこともあるが、大変なこともあるのだと感じた。

アイデア

新聞を買ったら〇〇が当たる !! 的なやつ

僕は今回の話を聞いて、僕は新聞から離れているところがあり、インターネットでたまにニュースを見るだけで、あまり関心がなかったけど、新聞にはいいところがあり、とても魅力のあるものだと言うことがわかりました。これからは父が読んでいる新聞も読んでみたいです。新聞を読む人が減っているのはめんどくさいという理由だと思うのでもっと見やすくしたり、ジャンルに分けたりしてもっとわかりやすくすれば読む人も増えると考えました。恩師の言葉や新聞部があったからここまで来れたと言っていたので僕も先生に言われた言葉や部活動の思い出を大切にしたいです。新聞記者の魅力やしんどかったことなどを聞くことができて仕事のことなどを僕の未来に繋げていきたいと思います。

今まで朝日新聞や神戸新聞などしか知らなかったけれど、共同通信があることを初めて知った。共同通信は神戸新聞などに比べて余裕があり、記者からするとやりやすいのかなと思った。最近ではリモートが増えているが、リモートはどこでもできる反面、相手の見えている部分が少ないので、直接取材するほうが良いのではないかと考えた。記事の裏側にある取材のことについて知る機会を増やしたり、実際に自分が取材する側になって記事を作ってみたりすることで、もっと新聞に興味を持つ人が増える。斎藤記者が取材にときや人と話すときに目を見ることが大事と言っていたので、このことを意識していきたい。

僕は、新聞は朝日新聞や毎日新聞のように紙の新聞しかないと思っていたけど、斎藤記者が働いている共同通信のようにインターネット上で見られる新聞があることを知れた。他にも、記者の仕事は体力が必要なことや、取材をしているときに気をつけないといけないことがあると分かった。特に、取材のときに相手の目をにないといけないのは、僕たちの生活でも同じことが言える。でも僕は先生や友達と話すときに目を見るのが苦手だから、相手の目を見て話せるようにしたいと思った。

若いのに、新聞離れをしていってこの時代に記者という仕事をする、と決めたのはすごいと思う。同じ内容でもネットやテレビの視聴率のほうが高くなっているのに新聞職についたっていうのはすごい判断で、さらに御家族様も医療系の中、一人違う道を選んだのも好きなんだろうなと感じさせられた。

アイデア

流行ってるニュースや若者のためになるようなニュースを取り上げること、インスタライブとかを取り入れる

NIE講演会を聞き、新聞記者なりの大変さが伝わり、良かったです。僕はどうしても「辛い時に質問されるの可哀想だな」と質問されている人に同情してしまいます。しかし、今日で変わりました。確かに質問される人も可哀想でも、それを理解した上で質問をしている記者の気持ちも分かった、気がします。「捉え方でこんなに変わるんだ」と驚きました。気持ちを理解することは新聞記者ならではの長所だと思います。記者が新聞を買って貰えるまでの苦労が分かります。自分はあまり新聞を目にする機会がなくsnsばかりですが、今日から新聞にも興味を持ち、手にしたいです。

若者が新聞を読むためには、南武のように授業に新聞を取り入れていくことだと思います。実際に僕も授業で新聞を取り扱ってから、ほんの少しだけど新聞を読むようになりました。共同通信という種類を初めて聞いたので読んでみようと思います。斎藤記者が記者で怖かったことで、夜中一人でいたと言っていて、そういう記事の裏側を聞けて良かったです。つらい思いをしながらも新聞記者という職業を楽しんでいて、そこから学べたことは、将来の職業や受験する高校は自分が楽しめる場所なのかが大切だということ学べました。新聞の重要さを他の人にも知ってもらいたいなと思いました。最後に、斎藤記者の話を聞いて新聞を読んでみようとゆう気持ちが強くなりました。本日はありがとうございました。

感想

「共同通信」という言葉を自己紹介のときに聞いたとき、何をしている人なのだろうと思いました。聞いていくうちに自分が作った記事を他のところに提供しているんだとわかりました。そして、「えひめ丸事件」について自分自身、初めて聞いた言葉でした。内容を聞いていくと、たくさんの高校生が亡くなりそして、その時の取材が顔も見えず初めて合う人と話すということは、とても難しいと思います。自分自身あまり人と話さないので人と目を合わせて話すということができません。だから顔が見えずに話すということの難しさがよくわかります。記者の話をこの3年間聞いてきてたくさんの発見がありました。今回のNIE講習会もそうだったと思います。

今回、共同通信やえひめ丸事故など初めて聞く言葉が多く、勉強になった。高校で取材をしたり、新聞を実際にかくという魅力に気づき、大学で恩師に出会うという偶然が重なり合わなければ、斎藤記者は現在記者という仕事をしていなかつたのかもしれないと思うと経験から道が決まっていくのだなとわかる。もし、私が斎藤記者と同じ立場で、地元から遠く離れた場所で仕事をしないといけないとなると、不安でいっぱいだと思う。そのため、わくわくしていたとい斎藤記者を尊敬する。それから、多くの新聞社から自分の記事を使ってもらうのは、光栄でとても気分の良いことだ。また、新聞のように紙面を埋める必要がないので自分の調べたいことも調べられるなんて共同通信には魅力がつまっているのだとわかった。

斎藤記者振り返り

わたしは共同通信を知りませんでした。でも今回のことを通して新聞のことや、記者がどれだけ大変かをたくさん知りました。女性の記者だから担当を外されたりするのは確かに嫌だと思います。私も裁判がみるのが好きで行ったことはないけどドラマなどでよく見てします。裁判は実際に人生で一回はみたほうがいいと思うので見に行ける歳になつたら必ず見入ってやろうと思っています。記者のかたは辛いことも親族の方とか聞かなければならぬのはとても記者かたもしんどいだろうなと思いました。今日言っていたように私も新聞をちゃんと読んだことがないし、とってもいません。でもテレビの朝のニュースなどは自分が興味あるものだったら見るしTwitterでもたまに見てます。興味・関心がないとニュースはなかなか見ないと思います。他にもニュースをあまり見ない理由は、語句がわからないときや、聞いていて嫌なニュースもあるし内容が難しくて理解ができないときがあるから、語句などの説明や内容を簡単にまとめたりしたらわかりやすい。新聞も読もうと思っても時間がかかったりしてしまうから写真などをしたら読もうと思ったりする。今回来て色々おしえてくださいありがとうございました。

取材の話がそこに携わった記者ならではの体験談で、記者としての苦労をしが能够した。裁判や事故、事件は私たちではありません関わることができず、メディアから事實を知ることしかできないが、出来事に関わった人の思いも伝わるものだと思った。事故、事件は起こりうるものではなく、防いでいかなければいけないので、遺族の思いも受け継いでいきたい。また、新聞では紙面を通しての人の出会いもあるので、様々な人の人生観にも触れていきたい。

斎藤記者講演感想

最近の若い人は新聞から離れているというのという話の通り私の家ではよく新聞をとっていますが、私自身はあまり新聞を読みません。しかし今回の話の中で取材の良さを感じて新聞記者の内容とニュースやネットの内容とではどんな違いがあるのか気になり少し新聞を読みたいと感じました。それでもいつかは読まなくなると思います。だから新聞は新鮮さがある新聞を作ればいいと思いました。例えば見出しをデザイン文字にしてみたり写真や新聞 자체をカラーにしたりなど今までとは違う新聞づくりをしたらいいと考えました。今回講演をしていただきありがとうございました。

僕が今回NIE講演会を聞いてわかったことは新聞記者は日本の経済のために必要なことなんだということがわかった。また新聞記者がどんな思いで仕事に取り組んでいるかというのが深くわかった。感じたことや驚いたことは、色々なところに行くのはいいなと感じた。またどんなところでも行くという新聞記者に驚きました。これからは僕も目標を作つて目標に向かって努力していきたいです。

斎藤記者の講演会を聞いてとても今後に関わってくるので考えさせられることがたくさんありました。今若者の世代では、紙新聞の割合が少ないとおしゃっていて、自分も振り返ってみると、あまり紙新聞を読む機会が少ないと気づきました。そして、今様々なメディアがある中で私は、テレビのニュースで情報を取り入れているため、たくさんのメディアを活用したくさんの情報を手に取るべきだと思いました。今後、私も紙新聞を手に取る機会を増やしていくことでなにか役に立つことがあることを今回の講演会で学ぶことができました。私が、よく目に取られやすいのは今流行のものや、なにか全体的に盛り上がっていること、自分が好きなことなどがよく目にとまるので、私が考える興味を持つてもらえる見出しだと、今流行っている人と関連付けたり、字体が新聞はほとんど同じなので、目に止まりやすいような、なにか文字だけでも気持ちを伝えられるような字体があると少しでも興味を持ちます。他にも、若い人は文字を読むことが好きな人が多いイメージではないので、忙しい人のためにも要約をつけてり、なにかイラストや漫画をより多くつけることで忙しい人にも、興味関心をひく事ができるのではないかと思いました。最後に、質問を含め全体をどうして、新聞記者のやりがい、職業の内容やマスメディアについて自分があまりわからないようなことがしれて、とてもいい機会になりました。

今回の講演会で、斎藤さんがどんなふうな気持ちで記者という仕事に向き合っているのかを知って尊敬の気持ちになった。何かあったときはただ聞いて記事にしてるだけだと思ってたけど、ちゃんと相手の目を見たり相手がどんな表情なのか、どこから聞いていくのかなど考えて聞いていることもした。記者という仕事に対して忙しそう、体力がいりそうなどというのではなく、あまり良い印象もなかったけど佐藤さんの経験したエピソードを聞いたときはこんなに忙しく怖い思いをすることもあると感じ、自分の記者への偏見が今回の講演を通して変わった。最後に言っていた体力勝負というのにかっこいい感じた。

中学でNIEの勉強や調べ学習を行うようになり、最近新聞に触れるようになりました。しかし、政治関係などの難しい話やことだを聞くとあまりピンとこないため、興味も向かないことが多いです。私はテレビ派で、毎朝ニュースを見て情報を得ます。近年は、SNS派の人が多いので、SNSで、明日のニュースや今日の話題、スポーツを簡単に発信し、宣伝するのがいいと思います。SNSは多くの人の目にとまることや簡単に発信できるメリットがあります。

そして、目にとまること、興味を持ってもらうことは大切ですが、手にしてもらわなければ意味がありません。コンビニなどの近場で手に入るのに、新聞置き場に気づけないことがほとんどです。ですから、入口付近よりも少し離れたレジ付近にわかりやすく置くのも一つの工夫だと考えます。これにより、新聞会社はもちろん、その新聞を売るお店にも利益があります。今回の話を聞いて記者さんは取材相手のこと以外にも、読み手のための工夫も考えていて、取材もあるのに大変だと改めて知り感じることができました。

感想

共同通信というのは初めて聞いたけれど、私が知っているような全国新聞にも記事を載せていましたと知り、自分が知らないだけでよく関わっていたんだと分かりました。また、入社4年目と言っていたけど、まだまだ若手の部類なことに驚いた。地域ごとに合わせて記事を書いているということにはすごいと思いました。私が記事を書くときが来るかはわからないけど、周りに合わせるというのは、日頃からできることなので考えてやっていきたいです。

感想

今日は、斎藤記者に講演会を開いてくれてとても記者について詳しく知ることができた。僕は新聞記者になりたいと少し思った。斎藤記者は、いろいろなところに取材に行き色々なことを見てきていてそのことがこの講演会でよくわかった。でも僕は、記者になると身の危険にも追われるということになると思った。なぜなら戦争や地震が起こった場所に行き人に取材したりするからです。

この講演会で斎藤記者がこの4年で思ったことなどが詳しく話していてとても良かったです。

若者が新聞を読むためには、新聞付録みたいのを作るのが良いと私はおもいました。小学生の頃コロコロコミックの付録を学校に持ってきて自慢している子がいてみんなそれに憧れてコロコロコミックを買っていました。小さい頃から新聞を手に取るということは一つの思い出になるので中学生になった頃あの頃買っていた新聞は一体どんなことが書いていたのだろうと気になって新聞を買い、現代の社会に面白みを感じたら継続して買うでしょう。今の新聞は文が多く内容が難しく子供にはむいてないと思います。子供から大人まで楽しめる新聞づくりをすれば若い人にも読んでもらえるとおもいました。斎藤記者の講演は4年と短くも長い経験の中どのような経験をしてきたのかがしっかり伝わってきてとてもわかりやすかったです。

(感想)

今日は、ありがとうございました。私達の想像がつかない新聞の裏側について知ることができてよかったです。記者をする中でしんどいことがたくさんあったと思いますが、それを乗り越え自分のスキルについて自分もそんなふうになりたいと感じました。共同通信という新聞を初めて聞いたので調べて読んでみようと思います。斎藤さんの考え方や私達が読んでもらえるように工夫していることがとても伝わり、かっこいいなと思いました。（若い世代の人が新聞を読むようにするには・・・私は、少し見出しのレタリングを派手にしたり吹き出しをつけたりしたらもっと良いんじゃないかなと思いました。）人と目を合わすのが苦手でも、取材させてもらう人には敬意を払ってめをあわして場面によって聞き方とかも変えているのがすごいなと感じました。私は国語の授業をきっかけに家で新聞を取るようにしたのですが、新聞にしかない魅力や、再利用の価値もとても高いので（生ゴミの処分、靴の湿気とり、お風呂の湯垢とりなど）他の人にも新聞の良さをもっと知ってほしいなと思いました。